

たとえば、 こんなお悩み ございませんか？

- 最近むせるようになってきた…。
- 喉に引っかかる感じがする。
- 食事にかかる時間が増えた。

食事や飲み込みの機能低下を、
ご自身やご家族、周囲の方々が
お気づきになることはありませんか。

もしかしたら、“安全に飲み込む力”や
“食べる力”が低下しているかもしれません。

高齢に伴う飲み込む機能の低下、手術や栄養状態の不良、
お口のトラブルなど、飲み込む機能の低下の原因は
いくつか考えられ、それらが複合する場合があります。

飲み込む機能の低下が気になる場合は、
ぜひかかりつけ医師・歯科医師に
ご相談ください。

当院嚥下治療センターでは、多職種が連携し、
摂食嚥下状態の検査・治療を行っています。

嚥下治療センターの特色

当センターは、嚥下（えんげ）障害により口から食べることが難しい患者さん、誤嚥による肺炎を繰り返す患者さん、およびその危険性のある患者さんの検査と治療を行っています。「安全に食べるための口の機能」と「安全に飲み込むためののどの機能」の改善を目的に、耳鼻咽喉・頭頸部外科、歯科、リハビリテーション科・部、看護部、栄養管理室、歯科衛生室等の多くのスタッフが協力しています。さらに、主に歯科外来に通院する患者さんや歯科開業医の先生方からの紹介患者さんを担当することを目的に、当センター内に嚥下治療センター・歯科を立ち上げました。当センターの特長である医科歯科連携を活かした体制から、より多くの食べることに困っている患者さんを診察することができるように努めています。



お問い合わせ窓口

東北大学病院 嚥下治療センター

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1

TEL.022-717-7755（耳鼻咽喉・頭頸部外科外来）

TEL.022-717-8581（嚥下治療センター・歯科）

<https://www.hosp.tohoku.ac.jp/departments/d3333>

受付時間
8:30～17:15

14:00以降ですと比較的
繋がりやすい時間と
なっております



東北大学病院

嚥下治療 センター

利用のご案内



嚥下治療センターご利用の流れ



〔1〕受診方法

地域医療機関・歯科医療機関からの紹介

外来受診の方は、**かかりつけ医・歯科医からの紹介状**をご持参ください。



嚥下治療
センター

紹介元の医療機関により、「嚥下治療センター」または「嚥下治療センター・歯科」を受診。

※受診後は、飲み込みに関する専門的な診察を受けていただきます。
※初診時に「嚥下治療センター」を受診いただいた場合でも、その後「嚥下治療センター・歯科」を受診いただく場合がありますし、その逆もあります。
※咀嚼やお口から喉への送り込みが困難な場合には、「嚥下治療センター・歯科」からの受診も可能です。

院内の主治医からの紹介

現在入院中で、**飲み込みに関して不安がある方は、病棟スタッフにご相談ください。**



嚥下治療
センター

基本的には(病棟)主治医より紹介され、「嚥下治療センター」を受診。

受診の受付などは、病棟スタッフや主治医が行います。飲み込みにくさなど患者さんからの受診希望があって受診いただく場合もありますし、主治医の判断で受診いただく場合もあります。



〔2〕検査

スクリーニング検査

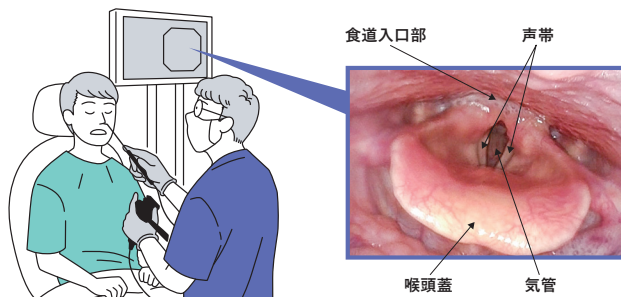
簡単な検査や質問にお答えいただき、飲み込みに問題があるかを検査します。問題があればさらに検査を進めます。

口腔内検査

摂食嚥下のスタートは口からです。歯の状態や舌の動き、力強さなどを確認して、きちんと食事ができる口の状態か、咀嚼機能検査などを行い確認します。

嚥下内視鏡検査(VE)

内視鏡を鼻から挿入して、普段の喉の様子や、飲み物、食物を食べていただき、飲み込みの様子や喉の動きを観察します。



嚥下造影検査(VF)

レントゲン室で、水分や食物を食べていただき、食事の際の口や舌、喉の動きを観察し、さらに誤嚥が起きていないかを確認します。



〔3〕方針の決定

多職種カンファレンス

医師・歯科医師・看護師・言語聴覚士・歯科衛生士など各専門家が集まり、患者さんに適切な食事・リハビリなどを検討します。



リハビリテーション

リハビリテーション部門では、ご本人の病態に合ったオーダーメイドのリハビリテーションを行っています。



栄養管理・栄養指導

患者さんの摂食嚥下機能に合わせた栄養食事相談や、必要な栄養を補うための方法のご提案などを行っています。



口腔管理・口腔内装置

誤嚥性肺炎予防に口腔内に綺麗に保つことはとても大切です。さらに、口腔内装置を使って飲み込みの補助をすることも可能です。

